

刊夕日九廿月一十

常磐寄日新聞

定価一円二角 月刊五元 郵費五割
廣告料五割 十二字第一行五元 五字以下
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日印刷株式会社

七五三の話 (三)

中山 太郎

七五三の祝ひ日が現在のやうに、十一月十五日に固定したのは、おらく江戸時代からのことだ。天和元年のこの日に徳川五代將軍綱吉の子徳松君を祝つたのが基調となつたのである。まいかと考へる。そして當時の故實家と稱する人々が、數の陰陽や吉凶を論じてゐるが、その多くは附會捏造であつて採るにたならぬ浮説である。

我國の固有信仰から云へば、七五三とか十一月十五日とかの奇數(陽數)を尊重したることなく、これは支那から移入された陰陽道の思想であつて、我國はこれに反して偶數(陰數)の二六八などを尊重したのである。そして十一月十五日は、正月十五日の上元、七月十五日の中元に對して下元に相當するのであるが、これも陰陽道の思想であつて、我國の古俗ではない。七五三の祝ひをこの日に定めたのは、やはり江戸時代の故實家が言ひ出した日のものと思ふ。

七五三の祝ひは、都會では重要な行事として、服装の美を競ふて巨財を投ずるが、地方の村落ではふんどし祝ひ七つ湯もじの簡素な習禮とした。それが今では地方にまで美服の競争を見るやうになつたが、家庭の自覺は漸く華美を避けて實用的の身祝ひになりつゝ、

群青の濤間に躍る鯉魚やうに漁村の子供は此の淺海に馴染んだ

濱木綿の咲く砂丘は沙漠のやうに燃えてゐる漁村の子供達は馬車のやうに其處を駆ける

鐵色に日焼けた頑健な裸體兒は太陽の子のやうに猛々しくそして海豚のやうに満潮の濤間に飛沫を上げて泳いだりした

漁村を走る白い石道には古風な馬車が唐笛を吹きながら通つてゐた

海に倦きると漁村の子供達は犬のやうに馬車に戯れながら唐笛の音を慕つて何處までも馳るのだつた

澤グリの森に嫋々と響いて村院の鐘が海を渡つてゆく頃になると、まるで海神の様な漁村の子供達は又白い石道を走つて魚の匂ひの氾濫する村に歸つてくるのだつた

- 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 - 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 - 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 - 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
- 【朝】コーヒー トーレスト
ジャム 果實
- 【晝】焼豆腐 煮ぬき
さみ大根と油揚げ清汁
- 【晩】清汁—くずり海老
しいたけ 柚子 豚肉 味噌つけやき
人参あちやら

あるは悦ぶべきことであるまことに身祝ひは簡素にいたしたへものです。これはまた武藏野の風習のひとつ、埼玉大宮あたりではその名もめでたく千本杵、帯解の身祝ひのある家に若い衆が集つて歌ひはやして餅を搗く、慶びを杵に揃へての心が、さぞはづむこととせう。



漁村の子供

間宮 一衛

漁村の子供は魚の匂ひがした

外科 X 光線科

性病科 外科科

平町 田町

安齊外科醫院

電話四七五番

意隨院人

ほねざき

桑原柔道整骨院

平町園下電話六七四

内科 外科 一般

金成醫院

平鎌田町(電三五八)

平岡鮎

レストラント

電話624

夜間診療

皮膚科 性病科 花柳病科 胃腸病科 内科

松村性胃腸病院

(番七〇一町南町平)

是非御試し下さい

平町古銀治町一〇縣社の下

阿康藥局

電話 四四番

振替口座東京三〇六五番

お身体のお弱い御婦人冷え性の御婦人下腹や腰等引きつり痛む方子宮のお悪い方などが血白血でお困りの方月經時に痛みを覚える方子寶のほしい方

三日分 50円
八日分 100円

一歯科一般

保存科補綴科 繼續架工科 齒列矯正科 小兒齒科 齒槽膿漏科

中野齒科醫院

平町田町(松月堂向ヒ) 電話五〇九番

院長 日本齒科醫學士 中野 惠次
日本齒科醫學士 西川 誠

平商新築の

運動愈よ白熱化

卒業生一千名の總意を

代表して商友會が對策

▽東京支部も呼應

平商友會の幹事及び商議の協議會は昨廿八日午後六時よりマルトモホールに開會し、勞頭皇太子殿下の御降誕を喜び、室橋會長の開辭及び母校改築運動の經過報告あり直ちに協議に入つたが全員一致母校改築に猛進する事となり促進實行委員として比佐三郎 宮川義一 鈴

奉祝會開催

平町で四日に

御誕生の……

親王殿下御誕生を奉祝するため平町は來月四日奉祝會を開催することになつたが明廿日午後一時より各區長青年團、軍入分會各團體各中小學校長が町會議室に參集打合せすると

平第三校の 平町第三小學校は此程職員會を開いて協議の結果十二月中の主なる行事を決定した

木武雄 金子浩治 菅本利雄 木田謙二 牛久英室橋光

の八氏を擧げ會員一千名の總意を代表して更に一層運動に拍車を加へることとなつたが學校側より矢野、服部、中村、武川、猪狩の各顧問東京支部より支部長代理鈴木壽夫氏及び幹事商議員約五十名出席した

魚市場建設の埋立開始

小名町會で決定

小名濱町魚市場の建設は豫算の關係で延期されて居たがいよいよ今月末に十一萬圓の豫算で現在の魚市場附近約六千坪を埋立て建設する事に決定した。明年三月竣工の豫定である

平商珠算入賞氏名

平商業學校の第三回珠算競技會は昨二十八日午前十一時より舉行されたが受賞者は百五十二名中決勝入賞者は左の七君であつた

(一等) 五年竹田秀太郎
(二等) 五年岡田彦太郎
(三等) 五年高田勇(三等) 五年梅原三郎(同) 會田長太郎(四年) 淳平(同) 佐藤

平局精神修養 平郵

便局は明廿九日午後三時から大浦村最勝院住職阿部宗順師を招き精神修養講演會を開く

各科研究教授 石城

郡第三區第一方面の國史、體操科の研究教授は來月三日午前十時より平第二小學校で開かれる

平町との併合を

平窪村會が附議

平窪村會は本廿九日午前九時より召集左記の件に就いて附議した

一、青年學校設立の規則訂正の件
一、特別戸數割臨時賦課額決定の件
一、平町に併合に關する協議の件

海軍志願 試験日割

既報明年二月廿九日から三日間平第三小學校講堂に執行される郡下各町村の十一年度海軍志願兵採用試験日割は左の如く決定した

(二月廿九日) 泉 渡邊 植田 山田 錦 勿來 上遠野 入遠野 川部 田人 平 飯野 夏井 高久 豊間 江名 鹿島 小名濱 玉川(三月卅一日) 湯本 内郷 好間 赤井 三阪(三月二日) 小

中堅農家が 篤農家の 講演を聴く

石城中堅農民講習會員約百名は廿六日午前八時磐崎村

石城産組部會で 強制検査陳情

米穀検査規定改正で 農業倉庫經營に支障 石城産業組合部會は昨廿八日午前十一時から九友ホールの於いて農業倉庫を經營

で同村篤農家の如き講演を聴講しつつ並に綿羊の實際に就き視察午後一時歸途に着く

△蒔蕪に就いて 大平儀平氏 △綿羊に就いて 矢内榮太郎氏

平鐵道竹由會

平鐵道俱樂部は來月一日樓上で書夜二回に亘つて竹由會三曲演奏會を開くが曲目左の如くである

(畫之部) 千代獅子 落梅 秋の言葉 螢 三つの景色 松風 楫枕 六段 蝶の夢 若葉(夜の部) 松上の鶴 里の曉 千鳥の曲 四季の眺 白の聲 夕顔 秋の曲 鐘が鳴 松竹梅

小名濱 陪審員

小名濱町に於ける十一年度陪審員は昨二十八日抽籤の結果左の如く決定した

小島源七 金成嘉忠 比佐昇

教育状況視察

平第三小學校の石田、西牧、根本三訓導は本廿八日田村郡大越村小學校に出張教育状況を視察した

平職製紹介所報告

求人をもめる方

△事務員 廿才迄 商卒 月給十五圓
△配達夫 卅才迄 日給七十錢
△水配達 卅才迄 月給十圓
△女中 廿才迄 月給五圓 仕着
△女中 廿才迄 月給六圓
△女中 廿二才迄 月給六圓

回職を求むる方

△配達人 卅才 尋二修
△女中 卅五才 高卒
△女中 廿才 尋卒
△自動車助手 廿一才 尋卒
△店員 廿四才 高卒
△旅館番頭 卅四歳 高卒
△料理人 四十歳 高卒
△鐵工 二十一歳 高卒

女を連れ込んだ 沓掛時次郎捕る

實は住所不定の一土工

甘い言葉で釣る

映畫を地で行く洒落た沓掛時次郎就縛——昨廿八日夜平驛前藤田屋旅館に女連で宿泊した土木請負業者沓掛時次郎(三七)と自稱した男あり氏名に不審を抱いた平署員が同夜午後八時頃本署に連

例年より暖かく 本年は雪が少ない

小名測候所天候打診

シーズン控へる小名測候所に十二月中の天気はどんなものかとこれが豫報を尋ねて見たが小磯所長の語る所によると

郡内カフエー當業 組合聯合會發會

エロサービス絶対排撃決議

石城郡西洋料理組合聯合會發會式は昨廿八日平町マルトモホールで平、好間、湯本、内郷、小名、江名、豊間の當業者四十名會堂、規約制定、役員決定、其の他の打合せを行ったが組合長

納税標語 優秀作品

第二校で選抜

平第二小學校は過般の納税標語を全校児童より募集したが審査の結果左記綴方四點、標語十點を選抜し平町役場へ提出した尙平町

▽綴方 三ノ三 鈴木清子
四ノ一 卷隆子 五ノ三 青木美代子 六ノ二 野口チエ子
△標語 「日掛月掛完納のもと」 六ノ一 大庭市子 「貧しくも完納なれば心豊かなり」 六ノ一 梅津吉子 「納める税に損はなし」 六ノ一 渡邊ユリ子 「やれよ笑顔で先づ完納」 六ノ一 齊藤つた子 「精出せば納税位は楽なもの」 高二ノ二 木村とよ子 「納税と門にはるより心にはれ」 高二ノ二 古川つや 「壁は落ちても輝く納税表」 尋六吉田みる子 「報いよ國恩果せよ納税」 尋五ノ一 柴貞子 「剛めよ家業納めよ税金」 尋五ノ一 若松よし「完納めざして隣もさそひ」 尋五ノ一 富田俊子

明日のラジオ

三十八

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間 郷土童謡 草山子供會
- 後六、二五 基礎英語講座 岡倉由三郎
- 後七、三〇 講演「科學界のトビック」 鉛市太郎
- 後八、〇〇 パッパ祭 新交響樂 豊増昇 ボラツ

明日の部

- 後八、四五 常磐津「おみつ物狂」 常磐津節太夫他
- 後九、一〇 ラヂオ小説 「兄と弟」 坂東寅助他
- 後九、三〇 時報 ニューズ 明日の歴史 氣象通報 番組豫告

- 前七、〇一 基礎獨語講座 (三十三) 武内大造
- 前七、三〇 朝の修養「親鸞聖人の生涯」(終) 禿氏 祐祥
- 前九、〇〇 衛生メセ
- 前九、一〇 料理献立 せなべー かき鍋 水菜 鍋「嵯峨岡崎子發表」
- 前一〇、三〇 家庭講座「家庭の常識」 四郵便の話 加藤正道
- 後〇、〇五 俚諺 長崎町 檢番連中 肥後俚諺 熊本 檢番
- 後二、〇〇 婦人の時間

- 十一月の婦人界展望 奥むめ
- 後五、〇〇 職業紹介事項
- 後六、〇〇 子供の時間 お話と喇叭「兵營の生活」 一日 庄野正三
- 後六、二五 講演「捕鯨の話」 志野徳助
- 後七、三〇 獨唱とピアノ (時事新報社主催第四回 音樂コンクール) 入賞者 福井順外
- 後八、一〇 浪花節劇 小松嵐「東家樂遊外
- 後九、〇〇 時事解説

手長の女給 家人の熟睡中に

手提を盗み高飛びして捕る

平町二丁目裏川岸通りカフエー花月事久田カフエーに去る廿六日前借七十圓で住こんだ上田千代(七)は廿八日未明前後の夜で家人が熟睡中をねらつてひそかに筆筒の中にあつた手提金庫

百萬圓の會社が 男女工の申込み

とても有利な条件です

歳末迫つて求人申込殺到配給に大多忙の平職業紹介所

平裁判たより

△双葉郡浪江町大字権現堂字新町三六自動運轉手掃部

男女工見習 右至急募集す

希望者來談あれ

常磐毎日印刷會社 長橋町 電話六三〇

ら白轉郷一輛白米四俵外雜品三十餘點(時價百七十圓)を窃取植田署に檢擧された事件は今二十九日午前十時から平區で中島判事係り氏家檢事立會公判開廷、求刑三年半に對し懲役三年を即決言渡された



明治太平記

(上野新橋) (在) 寺島証史 (巻)

第二百八十七回

生者死者 (三)

「いゝえ、何だか、死んでいくこともうれしうござんすわ、あんたや……あのひとに介拘されて、死んでゆくあたしは、何て幸福な人なでせう」

「すゝしい瞳には、涙さへなくむしろ朗かにうひくしかつた。」

「ね、ねえさん」

おとわは、苦しい息の下からまたいつた。

「あいよ」

「あたし死んだら、何處へいくのでせう」

「いやですよ、もうそんなことをいつちや……」

おぎんは、叱るやうにいつた。

「地獄でせうか、極樂……」

……地獄だつてかまやしませんわ。あんな方に、この世で、こんなに親切にしていたら、死んでいいもの……」

「もう、そんなこといつちや……」

「もしや、品川の宿はすれあたりで、あの強さうなウエルズに、返り討ちに遭つて、無惨な最後をとげたのではあるまいか。」

「てやうといふ意氣軒昂して出かけていつた大志賀も、多勢にはかなはず、遷卒の一家におさへられたのではあるまいか。」



「ひよいとすると、蒸汽車が、ひつくりかへつて客車の下敷になつたのではあるまいか。」

「川崎と品川のあひだで、ウエルズに出會ひ、蒸汽車から引ずりおろして料理……」

「大志賀さん負けてたまるものかい」

「あつたの死んだあとで、あの……あのひとが歸つてらしたら、あたしのかわり……」

「ただでくるしさに突伏してしまつた。」

「おぎんは、おとわの背をなでさすりながら、誰かに助けを求めるやうに、うろくした。」

干ヤナギ 賣り始めました

鯉節 鯉鹽 辛

平土橋 丸仙鮮魚店 電六六二番

食事 兼 酒場 の 冬 サロンの 暖房設備が出来ました

御家庭の延長として 是非御利用下さいませ

温かいミルク(牛乳)	十銭	
御飯物	リプトン紅茶	十銭
お菓子	十五銭	

平・田町 電三五二 男給の店 イハキ サロン

開 院

五十嵐 産科婦人科 醫院

平町新川町一二

醫學博士 五十嵐雄二

電話三七〇番

(入院應需)

喜多流 謠曲と仕舞の 稽古をお奨め致します

平町田町六九

喜多 仕舞曲白土會

電話二二七番

平屋洋品店

平町田町通電話五六六番